

© EPODOC / EPO

PN - JP60010606 A 19850119
 TI - MAGNETIC CORE FOR POWER SOURCE LINE FILTER
 EC - H01F3/10 ; H01F27/24
 FI - H03H7/09&A ; H01F27/24&J
 PA - HITACHI METALS LTD
 IN - YAMAUCHI KIYOTAKA; YOSHIZAWA KATSUTO
 AP - JP19830117858 19830629
 PR - JP19830117858 19830629
 DT - *

© WPI / DERWENT

AN - 1985-053318 [09]
 TI - Power filter core formed by amorphous and ferrite magnetic core - having its cross section 30 per-cent more than total diameter and amorphous thickness of 25 micron or less NoAbstract Dwg 0/3
 IW - POWER FILTER CORE FORMING AMORPHOUS FERRITE MAGNETIC CORE CROSS SECTION PER CENT MORE TOTAL DIAMETER AMORPHOUS THICK MICRON LESS NOABSTRACT
 PN - JP60010606 A 19850119 DW198509 008pp
 IC - H01F27/24 ;H03H7/01
 MC - U25-E02 V02-F02
 DC - U25 V02
 PA - (HITK) HITACHI METALS LTD
 AP - JP19830117858 19830629
 PR - JP19830117858 19830629

© PAJ / JPO

PN - JP60010606 A 19850119
 TI - MAGNETIC CORE FOR POWER SOURCE LINE FILTER
 AB - PURPOSE:To improve high frequency characteristics against noise and characteristics against high voltage pulse by composing a line filter core of an amorphous core and a ferrite core.
 - CONSTITUTION:A ferrite core is hard to saturate but an absolute value of its permeability drops rapidly in a high frequency region. On the other hand, an amorphous core is easy to saturate but its permeability does not drop rapidly. Therefore, if a line filter core is composed of a ferrite core and an amorphous core which are magnetically connected in parallel, frequency characteristics are improved by the amorphous core and characteristics against high voltage pulse are improved by the ferrite core. When an effective area of the amorphous core is 30% of the whole area and the thickness of the amorphous is 25μm or less and the absolute value of its permeability at 1MHz is 2,000 or above, the excellent characteristics can be obtained.
 I - H01F27/24 ;H03H7/01
 PA - HITACHI KINZOKU KK
 IN - YOSHIZAWA KATSUTO; others: 01
 ABD - 19850528
 ABV - 009123
 GR - E317
 AP - JP19830117858 19830629

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-10606

Int. Cl.
H 01 F 27/24
H 03 H 7/01

識別記号

序内整理番号
8022-5E
7328-5J

⑫公開 昭和60年(1985)1月19日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑬電源ラインフィルター用磁心
⑭特 願 昭58-117858
⑮出 願 昭58(1983)6月29日
⑯發 明 者 吉沢克仁
熊谷市三ヶ尻5200番地日立金属
株式会社磁性材料研究所内

⑰發 明 者 山内清隆
熊谷市三ヶ尻5200番地日立金属
株式会社磁性材料研究所内
⑱出 願 人 日立金属株式会社
東京都千代田区丸の内2丁目1
番2号

明細書

発明の名称 電源ラインフィルター用磁心

特許請求の範囲

- アモルファス磁心とフェライト磁心とからなることを特徴とする電源ラインフィルター用磁心。
- アモルファス磁心の有効断面積が磁心全体の有効断面積の30%以上であることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電源ラインフィルター用磁心。
- アモルファス磁心を構成するアモルファスの厚さが25μm以下であることを特徴とする特許請求の範囲第1項ならびに第2項記載の電源ラインフィルター用磁心。
- 1MHzでの透磁率の絶対値 μ_1 が2000以上であるアモルファス磁心を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第1項、第2項、ならびに第3項記載の電源ラインフィルター用磁心。

発明の詳細な説明

本発明は、電源ラインフィルター用磁心の改良に関するものである。

電源ラインに流れる往復電流により生ずる磁束が打ち消される方向に一対の巻線を磁心に施したラインフィルター用コモンモードチョークコイル等の磁心としては、従来フェライト、珪素鋼、圧粉磁心等が使用されていた。

この用途の磁心の特性としては透磁率の絶対値が広い周波数にわたり大きくかつ磁心が瞬間的なパルス電流に対して飽和しないものが良い。

この目的に対して珪素鋼は高周波での透磁率が小さくなり、圧粉磁心は透磁率が低いなどの欠点がある。

フェライトは比較的周波数特性が良いため本的に適している。 μ_1 が100kHzで5000程度のものは1MHz以上になると急速に透磁率が落ちてしまう。また、1MHz以下の周波数での透磁率が更に高いものは更に周波数特性が悪くなる欠点がある。

最近注目されているものにアモルファス磁心がある。この磁心は優れた周波数特性を示しフェライトのように1MHz以上の高周波において急速

な透磁率が落ちることはない。このため、コモンモードノイズフィルター用磁心としてはかなり有望である。しかしながら、アモルファス磁心は既100kHzから10MHzの間の範囲でフェライトより低い透磁率となってしまい、この範囲ではフェライトより特性面で劣る。また、アモルファス磁心は飽和磁束密度がフェライトより高いにもかかわらず軟磁気特性に優れており、飽和しやすいためフェライトに比べパルス的な大きなノイズに対しては弱い欠点がある。

本発明は上記従来技術の欠点を改良し、周波数特性に優れ、かつ高電圧のノイズに対しても効果がある電源ラインフィルター用磁心を提供することを目的とする。

本発明の要点は、従来電源ラインフィルター用に使われていたフェライト磁心と、500kHz以下の周波数および数MHz以上の周波数において、フェライトより透磁率が高いアモルファス磁心で電源ラインフィルター用磁心を構成し、周波数特性に優れ、大電圧パルスに対しても良好な特性を

示す電源ラインフィルター用磁心を得ることにある。

特にアモルファス磁心の有効断面積を磁心の全断面積の30%以上にすることは500kHz以下、数MHz以上のノイズ特性を改善する上で有利となる。

また、磁心を構成するアモルファスリボンの厚さは25μm以下が1MHz以上のノイズ特性を改善する上で有利である。また、アモルファス磁心の透磁率の絶対値|μ|は1MHzで2000以上あることが望ましい。これ以下の場合は、フェライトより高周波の特性が悪くなり、アモルファスを使用したメリットが失われる。

以下、本発明を実施例に従って説明する。

実施例1

第1図に本発明による電源ラインフィルター用磁心を用いコモンモードチョークを構成した場合の斜視図を示す。この図において、磁心はフェライトとアモルファス芯板をトワイダル巻きあるいはホトエッティング、打ち抜きによりラミネートさ

- - 3 -

れたものから構成される。

実施例2

第2図は本発明による磁心と、コモンモードノイズフィルター用フェライト磁心、アモルファス磁心のインダクタンスL-高流電流I_{dc}特性を示した図である。

アモルファス磁心の直流重畳特性の悪い点が本発明による磁心は改善されているのがわかる。このため高電圧パルス状ノイズに対しても比較的良好な特性を得ることができる。

実施例3

第3図は本発明による磁心と、フェライト、アモルファス磁心の|μ|の周波数依存性を示した図である。本発明により、フェライト、アモルファス磁心の欠点を補うことができ、広い範囲にわたり周波数特性が良好となることがわかる。

本発明により、従来の電源ラインフィルター用磁心のノイズに対する周波数特性が悪い点、高電圧パルスに対して弱い点が改善された。

図面の簡単な説明

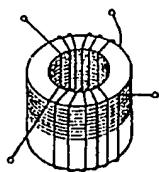
- - 4 -

第1図は本発明による電源ラインフィルター用磁心を用いコモンモードチョークを構成した場合の斜視図、第2図は本発明による磁心の一実施例におけるインダクタンスLと直流電流I_{dc}の関係を示した図、第3図は本発明による磁心の一実施例における透磁率の絶対値|μ|の周波数依存性を示した図である。

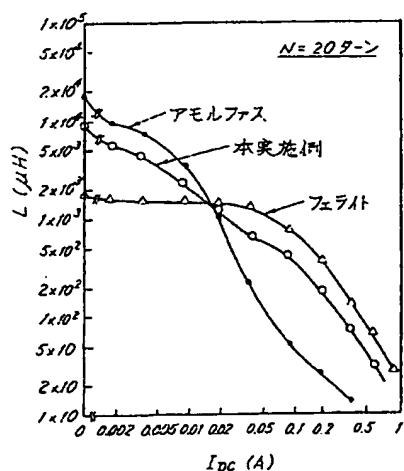
出願人 日立金属株式会社



第 1 図



第 2 図



第 3 図

